

食感覚の擬音語・擬態語の収集と選定

早川 文代, 岩政由布子*, 畑江 敬子*, 島田 淳子*

(小田原女子短期大学, * お茶の水女子大学生生活科学部)

原稿受付平成 10 年 3 月 30 日; 原稿受理平成 11 年 1 月 29 日

Collection of Onomatopoeic Terms for Describing Food Properties

Fumiyo HAYAKAWA, Yufuko IWAMASA,* Keiko HATAE* and Atsuko SHIMADA*

Odawara Women's College, Odawara, Kanagawa 250-0045

** School of Human Life and Environmental Science, Ochanomizu University,
Bunkyo-ku, Tokyo 112-8610*

The use of onomatopoeic terms for describing food properties was studied. Fifty-three onomatopoeic terms were selected to describe food properties by round-table discussion and questionnaires from 192 terms that had been collected from literature and free-answer questionnaires. A panel of 830 persons was asked whether the selected terms correctly expressed the properties of foods. Of the 648 returned questionnaires, 595 were considered valid and thus used for further analysis. More than 40 % of the panel (with a confidence level of 95 %) answered "yes" for almost all of the terms. A further analysis showed that the use of such terms as "mattari" and "boso-boso" differed according to the sex, age and/or degree of interest in food of the panelists.

(Received March 30, 1998; Accepted in revised form January 29, 1999)

Keywords: onomatopoeic term 擬音語・擬態語, questionnaire アンケート, sense 感覚, food 食物.

1. 緒 言

人間が感覚で捉えた食べ物の性質は、言葉を媒体として表現される。このような言葉は、通常、無意識に使われることが多いが、食品の特性あるいは人間の感覚特性を客観化する際、重要な手がかりとなる。

食に関する言葉について、日本語に特徴的なことの一つとして、国立国語研究所の南は、比喩表現や擬音語・擬態語の存在を挙げている¹⁾。Yoshikawa *et al.*²⁾も日本語のテクスチャプロフィールを提唱した際、英語に比べて擬音語・擬態語が多いと指摘している。また、匂い用語^{3)~5)}、油脂の関与する感覚用語⁶⁾にも擬音語・擬態語は数多くみられる。

このように、擬音語・擬態語は日本語の食感覚の表現に特徴的であり、また、音や状態を直接擬した言葉であることから、食品の特性を強く反映していると考えられるが、これらについての統一的な研究はなされていない。そこで本研究は、食品の特性や人間の感覚特性を客観化する際の有用な情報となるよう、食感覚を表現する擬音語・擬態語（以下、食感覚の擬音語・

擬態語とする）を体系化するための予備的研究として、用語を収集、整理した。

まず、研究室パネルのアンケート調査および文献調査により用語を収集し、専門パネルの討議および研究室パネルのアンケート調査によって用語を整理した。さらに、収集、整理した用語が広く受け入れられるかどうかを検証するため、消費者パネルのアンケート調査を実施した。あわせて、パネルの属性による回答の違いについても検討した。

なお、パネルとは「官能検査の目的のために選ばれた特定の資格をもった人々の集団」⁷⁾であるが、本研究では、経験や訓練の程度により、調査対象者を分類する便宜上、調査に回答する人々および討議を行う人々の集団をパネルと呼ぶことにした。

2. 方 法

(1) 用語の収集

1) アンケート調査

パネル：研究室パネルを用いた。食品に対する関心

が高く、日頃から官能検査で感覚を表現することに慣れているお茶の水女子大学調理学研究室員 31 人とした。

質問：自由回答形式を用いた。「食感覚を表現する擬音語・擬態語を思いつく限り挙げよ」と質問した。

2) 文献調査

擬音語・擬態語辞典⁸⁾、擬音語・擬態語使い方辞典⁹⁾、日英擬音語・擬態語活用辞典¹⁰⁾、国語辞典¹¹⁾、広辞苑¹²⁾、感覚用語に関する文献^{2) 3) 6) 13)}から、食感覚を表現すると考えられる擬音語・擬態語を選び出した。

(2) 用語の整理

1) 討 議

パネル：研究室パネルの中から、より高度な知識と経験をもつ専門パネル 5 人を用いた。

2) アンケート調査

パネル：研究室パネルを用いた。食品に対する関心が高く、日頃から官能検査で感覚を表現することに慣れているお茶の水女子大学調理学研究室員 34 人とした。

質問：二者択一形式を用い、各用語について「食感覚を表現するか」と質問し、○か×を記入させた。

集計：各用語について「表現する」と答えたパネルの頻度を集計した。

(3) 収集・整理した用語の消費者パネルへの適用

1) パネル

消費者パネルを用いた。対象は、おもに関東地方に居住する 15 歳以上の日本人男女とした。調査の目的と内容に対する十分な理解力を有することが望まれたので、平成 8 年度お茶の水女子大学調理学研究室名簿の全数を対象とし、さらにその協力により家族、知人を含めて 830 人に調査を依頼した。

2) 調査票の作成

各用語が食感覚を表現するかどうかを質問した。乱数表を用いて用語をランダムに提示し、○か×で評価させた。また、回答がパネルの属性により異なるかどうかを調べるため、調査票の最後にフェイスシートを添付した。総理府の世論調査¹⁴⁾を参考にして、性（男性/女性）、年齢（10 代/20 代/30 代/40 代/50 代/60 代以上）、職業（食に関係する職業/その他の職業）、食に対する興味（とても興味がある/かなり興味がある/やや興味がある/あまり興味がない/興味がない）について質問した。

3) 調査の実施

調査は、平成 8 年 12 月から平成 9 年 1 月にかけて、

留め置き法¹⁵⁾により行った。

4) 集計および解析

各用語について「食感覚を表現する」と答えたパネルの頻度を、単純集計およびクロス集計した。パネルの属性による違いがあるか否かについては t 検定および χ^2 検定を行った。解析には、Stat Partner ver. 2.0 (NEC Softwear Ltd.) を用いた。

3. 結果および考察

(1) 用語の収集・整理

用語の収集方法には、アンケート調査、辞典の調査、関連の文献からの選択などが考えられる。本研究では、効率的、かつ精度よく、広範囲に及ぶ用語を収集できるよう、研究室パネルのアンケート調査および文献調査の両方を実施した。

収集した用語の一覧を表 1 に示した。ここでは、ひらがなとカタカナの表記の区別はせず、便宜上ひらがなで統一した。用語数は 192 で、内訳は、研究室パネルのアンケート調査から 155 語、文献調査から 186 語であり、アンケート調査と文献調査に重複する用語は 149 語であった。“あつあつ” “ぐにゃぐにゃ” のように同じフレーズを繰り返すもの、“からっ” “かりっ” のように促音で終わるものなど多種多様であった。中には、同じような音/文字からなる“がぶっ” “がぶり” や“にゅるにゅる” “ぬるぬる”、濁音、半濁音の異なる“ぼそぼそ” “ぼそぼそ”、わずかに拗音が異なる“ねちゃねちゃ” “ねちょねちょ” なども見られ、食感覚の表現に擬音語・擬態語が数多いこと、また、それらが微細な差異を含むことがうかがえた。

しかし、収集した中には、食感覚の表現として不適当な用語も含まれている可能性もある。そこで、専門パネルの討議により、収集した 192 語から、以下の

①～③ の用語を除いた。

① 日本語として不自然なもの：“うにゃうにゃ” 1 語。

② 食物に関係ないもの：“ごわごわ” “ほろほろ” “いがいが” の 3 語。

③ 食べる動作を表現するもの：“がつがつ” “もりもり” “ちびりちびり” など 36 語。

この段階で残った用語は 152 語であった。

これら 152 語はそれぞれ異なる感覚を表現しており、音/文字が微細な差異であっても、厳密には同一のものとはみなすべきではない。しかし、本研究は、多種多様の擬音語・擬態語を大まかに収集、整理することを

食感覚の擬音語・擬態語の収集と選定

表 1. 収集した食感覚を表現する用語 192 語

あつあつ	ごくり	ずるり (B)	ばきばき	べちゃべちゃ
あっさり	こくん (B)	たらたら	ばきばき	べちょべちょ
いがいが	ごくん (B)	だらだら	ばくばく	べったり
うにやうにゃ (A)	こくんこくん	たらっ (B)	ばくり	べっとり
がきがき	こちこち	だらっ (B)	ばさばさ	べとべと
かすかす	ごっくごっく	たらし (B)	ばさばさ	べろっ (B)
かちかち	ごっくん	だらし (B)	ばらばら	べろっ (B)
がちがち	こってり	ちびちび (B)	ばりっ (B)	べろべろ
かっか (B)	こてこて	ちびりちびり	ばりっ	べろべろ (B)
がつがつ (B)	こりこり	ちゅーちゅー (B)	ばりばり	べろん (B)
がぶがぶ (B)	ごりごり	ちゅっちゅっ (B)	ばりばり	べろん (B)
がぶっ (B)	ごろごろ	つぶつぶ	びたびた	ぼきっ
がぶり	ごわごわ	つるっ	びちびち	ぼきぼき
からっ	さくさく	つるつる	びちゃっ (B)	ほくほく
からり	ざくざく	つるり	びちゃびちゃ	ほくほく
かりかり	さっくり	つるん	ひやっ (B)	ぼそっ (B)
がりがり	さっぱり	つんっ	びりっ	ぼそぼそ
かりっ	さらさら	つんつん	ひりひり	ぼそぼそ
がりっ (B)	ざらざら	どっしり	びりびり	ぼたぼた
きーきー	さらっ	とろっ	ひんやり	ほっかほか
きしきし	ざらっ (B)	どろっ	ふーふー	ぼってり
ぎしぎし	しこしこ	とろとろ	ふかふか	ぼりぼり
ぎとぎと	しっとり	どろどろ	ぶちぶち (A)	ぼりぼり
ぐいぐい (B)	しなしな	とろり	ふっくら	ほろほろ
くしゃくしゃ	しゃきしゃき	どろり	ぶつぶつ	ぼろぼろ
ぐしよぐしよ	しゃきっ (B)	にちゃにちゃ	ふにやふにや	ぼろぼろ
ぐずぐず	しゃりしゃり	にゆるにゆる (A)	ぶにやぶにや	ほわほわ
くたくた	じゃりじゃり	ぬめぬめ	ぶよぶよ	まったり
くちゃくちゃ	しゅわー (A)	ぬるっ	ぶりっ	むしゃむしゃ
ぐちゃぐちゃ	じゅわー (A)	ぬるぬる	ぶりぶり	むちむち
くちよくちよ	しゅわしゅわ (A)	ねちねち	ぶるっ (B)	もぐもぐ
くにあくにあ	しんなり	ねちゃねちゃ	ぶるぶる	もさもさ
ぐにやぐにや	すーすー	ねちょねちょ	ぶるんぶるん	もしよもしよ
ぐにやっ	すかすか (B)	ねっとり	ふわっ	もそもそ
ぐびぐび (B)	するする	ねとねと	ふわふわ	もちもち
ぐびっ (B)	ずるずる	ねばねば	ふんわり	もったり
ぐぶり (B)	するっ (B)	のっぺり	べたべた	もっちり
ぐぶりぐぶり (B)	ずるっ (B)	ばきっ (B)	べちゃべちゃ	もりもり
ごくごく	するり (B)			

研究室パネル 31 人による自由回答形式のアンケート調査および文献調査から得た。用語の後の (A) はアンケート調査のみから、(B) は文献調査のみから得たことを表す。その他の用語はアンケート調査および文献調査を両方から得た。

目的としており、各用語の詳細な違いについて定義づけるものではなく、また、今後さらにアンケート調査や解析を行って用語の特徴づけを行うことを考えると、

対象は数十語に絞った方がよい。このような考えのもと、152 語について、さらに専門パネルの討議を行って類似の用語をまとめ、62 の用語群を作成した。そ

表2. 192語の中から選択された62用語群と代表語

あつあつ	くにくにくにゃ	しゅわー	つんっ	ぴたぴた	ほきっ
あつさり	ぐにゃぐにゃ	じゅわー	つんつん	ぴちぴち	ほきほき
がきがき	ぐにゃっ	しゅわしゅわ	どっしり	ぴちゃっ	ほくほく
かちかち	こってり	すーすー	にちゃにちゃ	ひやっ	ほくほく
がちがち	こてこて	するする	ねちねち	ひんやり	ほそっ
こちこち	こりこり	ずるずる	ねちゃねちゃ	ぴりっ	ほそほそ
かすかす	ごりごり	するっ	ねちょねちょ	ひりひり	ほそほそ
すかすか	ごろごろ	ずるっ	ねっとり	ぴりぴり	ぼたぼた
かっか	さくさく	するり	ねとねと	ふかふか	ほってり
からっ	ざくざく	ずるり	ねばねば	ふっくら	ほっかほか
からり	さっくり	たらたら	にゆるにゆる	ふわっ	ほりほり
かりかり	さっぱり	たらっ	ぬめぬめ	ふわふわ	ほりほり
かりっ	さらさら	たりり	ぬるっ	ふんわり	ほろほろ
がりがり	さらっ	とろとろ	ぬるぬる	ほわほわ	ほろほろ
がりっ	ざらざら	だらだら	のっぺり	ふにゃふにゃ	まったり
きーきー	ざらっ	だらっ	ばきっ	ぶにゃぶにゃ	もったり
きしきし	しこしこ	だらり	ばきばき	ぶよぶよ	むちむち
ぎしぎし	しっとり	どろっ	ばきばき	ぶるっ	もちもち
ぎとぎと	しなしな	どろどろ	ばさばさ	ぶるぶる	もっちり
くしゃくしゃ	しんなり	どろり	ばさばさ	ぶるんぶるん	もさもさ
ぐしょぐしょ	しゃきしゃき	つぶつぶ	ばらばら	ぶりっ	もしよもしよ
ぐずぐず	しゃきっ	ぶつぶつ	ばりっ	ぶりぶり	もそもそ
くたくた	しゃりしゃり	つるっ	ばりばり	べたべた	
	じゃりじゃり	つるつる	ぱりっ	べちゃべちゃ	
		つるり	ぱりぱり	べちょべちょ	
		つるん		べったり	
				べっとり	
				べとべと	

専門パネル5人の討議による62の用語群と代表語。各群の代表語は ☐ で示した。

それぞれの用語群から、収集した際の頻度などを参考に、最も馴染み深いと考えられる用語1語を代表とした。用語群と代表語を表2に示した。

さらに、62語について、研究室パネルにアンケート調査を行い、「食感覚を表現するか」と質問し、結果を受けて、再度、専門パネルにより討議を行った。その結果、「食感覚を表現する」の回答が31人中15

人以下と半数を下回った、「ぐしょぐしょ」「くたくた」「しなしな」「つんつん」「どっしり」「のっぺり」「ばきばき」「ぴちぴち」「ぼたぼた」の9語は除くこととし、最終的に53語とした(表3)。

(2) 収集・整理した用語の消費者パネルへの適用

1) 単純集計

調査を依頼した830人に対して、回答者数は648人

食感覚の擬音語・擬態語の収集と選定

表3. 食感覚の擬音語・擬態語として選定した53語

あつあつ	しっとり	ぶちぶち
あっさり	しゃきしゃき	ふっくら
かすかす	しゃりしゃり	ふにゃふにゃ
かちかち	しゅわしゅわ	ぶるぶる
かっか	すーすー	ぶりぶり
からっ	ずるずる	ふわふわ
かりかり	つるつる	べたべた
がりがり	とろとろ	ぼきぼき
きしきし	どろどろ	ほくほく
ぎとぎと	にちゃにちゃ	ほそほそ
ぐにゃぐにゃ	ぬるぬる	ほっかほか
こってり	ねっとり	ぼりぼり
こりこり	ばさばさ	ぼりぼり
さくさく	ばらばら	ぼろぼろ
さっぱり	ばりばり	まったり
さらさら	ばりばり	むちむち
ざらざら	ひりひり	もそもそ
しこしこ	ひんやり	

62語から、専門パネル5人の討議により、研究室パネル31人のアンケートで16人以上が食感覚を表現すると回答した53語を食感覚の擬音語・擬態語とした。

(78.1%)で、記入漏れや記入ミスを除いた有効回答者数は595人(71.7%)であった。有効回答者595人の属性の詳細を表4に示した。

各用語について、「食感覚を表現するか」の間にYesと答えたパネリストの人数を単純集計によって得た。以下、「Yesと答えた」を「認知した」、「Yesと答えたパネリストの割合」を「認知度」とする。図1に各用語の認知度と95%信頼区間を示した。図1は、認知度の高い用語から並べた。標本が595と十分大きいので、母集団割合を標本割合で近似して、信頼区間を次式により求めた。

$$\theta_i = \hat{p}_i \pm 1.96 \sqrt{\frac{\hat{p}_i(1-\hat{p}_i)}{n}}$$

ここで、 θ_i は用語*i*の95%信頼区間を表し、 $\hat{p}_i$ は用語*i*の標本認知度、すなわち用語*i*を認知したパネリストの標本割合を、 n は標本の大きさ、すなわち595を表す。

“ばりばり”“こりこり”などは認知度が高く、“つるつる”までの上位7語は、認知度の95%信頼区間の下限が0.9を超えていた。このような認知度の高さの背景として、これらの用語が食感覚表現として頻繁に使用されるので認知度が高い、また、食感覚に特異的

表4. 有効回答者の属性

1) 性・年齢			
年齢	男性	女性	合計
15～19	54	54	108
20～29	53	54	107
30～39	54	51	105
40～49	50	56	106
50～59	38	46	84
60～	35	50	85
合 計	284	311	595
2) 職 業			
食に係る職業			68
その他の職業(学生・無職を含む)			527
合 計			595
3) 食に対する興味			
とても興味がある			163
かなり興味がある			180
やや興味がある			184
あまり興味がない			59
興味がない			9
合 計			595

表中の数字はすべて人数(人)を表す。

に使用され、他の表現には使用されないもので、食感覚表現としての認知度が高い、あるいは、嗜好的に非常に重要な感覚であるため、食感覚の表現としての印象が強い、といった可能性が考えられる。

同様に“べたべた”(図1右側、3番め)までの30語は0.7、“ぎとぎと”までの41語は0.5を、“むちむち”までの51語は0.4を越えていた。認知度が低かったのは“かっか”“きしきし”の2語で、それぞれ、 0.242 ± 0.034 , 0.192 ± 0.032 (95%信頼区間)と低くなっていた。

以上のように、ほとんどの用語は、食感覚の表現として認知されていることが確認された。認知度の低い2語については、用語の特徴や今後の推移を調べたい。

2) 性による回答の傾向

1人のパネリストの全53語中の認知した語数を調べたところ、男性の平均が 37.6 ± 7.0 語、女性の平均が 39.5 ± 7.3 語であった。平均値の差を*t*検定を行って調べたところ、有意水準1%で、有意に女性の方が多かった。このことから、女性の方が食感覚を表現す

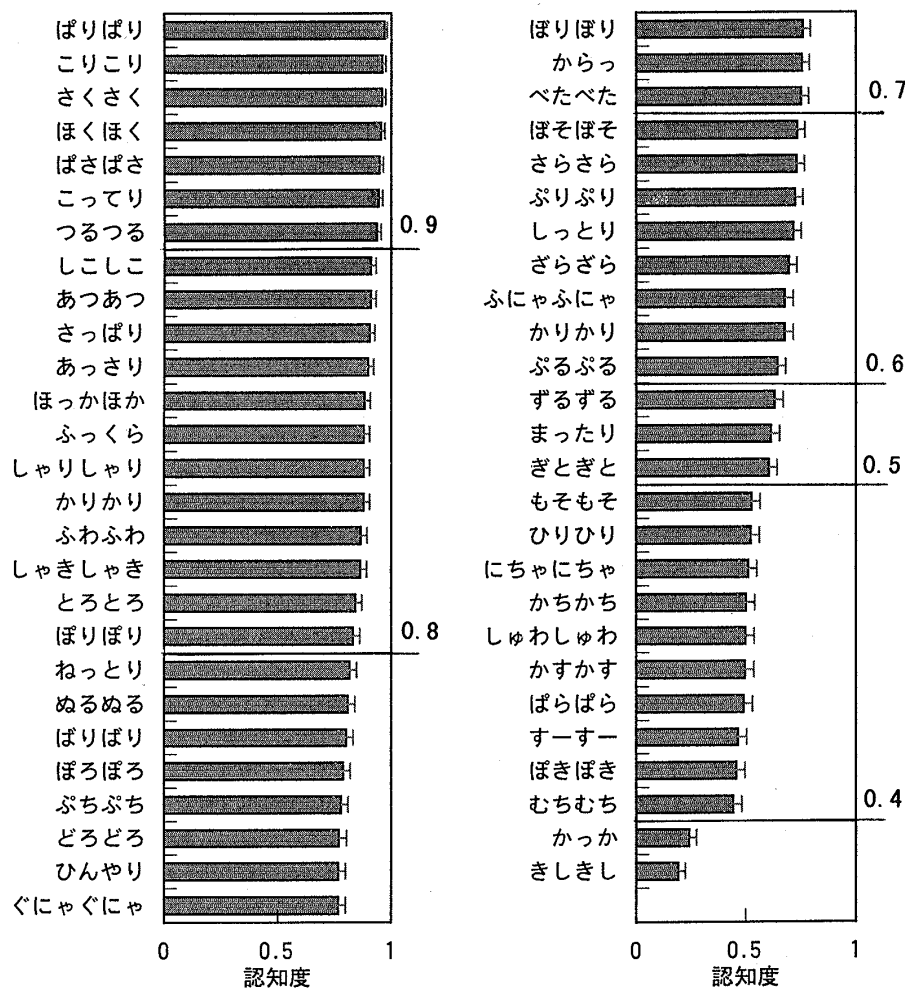


図 1. 各用語の認知度

消費者パネル 595 人のアンケート調査結果. 各用語について「食感覚を表現するか」の間に Yes と回答したパネリストの割合を認知度として, 認知度の高いものから順に示した. 図中の誤差線は, 95%信頼区間を表す.

る用語が豊富であることが推察された.

つぎに, 個々の用語について, 認知度を男女で比較し, χ^2 検定を行った. 有意水準 5% で男女差が認められた用語は 14 語あり, いずれも女性の方が認知度が高かった. このうち上位 5 語を図 2 に示した. これらの違いは, 食経験や食嗜好の違いに起因する可能性がある. 例を挙げると, “しっとり” “ぼそぼそ” で形容される食べ物は女性に頻繁に食べられており, その結果, 女性に認知度が高くなる, という可能性, あるいは, 女性はこれらの感覚を嗜好的に重要視しているから用語に敏感に反応するという可能性が考えられる.

3) 年齢による回答の傾向

1 人のパネリストの全 53 語中の認知した語数を年齢層別に集計したところ, 10 代 38.2 ± 7.0 語, 20 代 38.0 ± 6.9 語, 30 代 37.5 ± 6.3 語, 40 代 39.2 ± 7.9

語, 50 代 38.0 ± 7.8 語, 60 代 41.0 ± 7.0 語であった. 分散分析を行った結果, 60 代と 10, 20, 30, 50 代の間には, 有意水準 5% で有意差があった. 言葉が時代により変化することは周知のとおりであり, この結果の背景には, 時代の変化や食経験の差などの影響が考えられる.

個々の用語について, 年齢層別の認知度を比較し, χ^2 検定を行った. 有意水準 5% で, 年齢層による有意差が認められた用語は 24 語あった. このうち, 差の大きい上位 5 語を図 3 に示した. “ぶるぶる” “まったり” “しゅわしゅわ” は若年層に認知度が高く, 一方, “しこしこ” “ひりひり” は中高年層に認知度が高かった. この結果より, “ぶるぶる” “まったり” “しゅわしゅわ” などは新しい用語であり, “しこしこ” “ひりひり” は, 食感覚の表現としては次第に使用され

食感覚の擬音語・擬態語の収集と選定

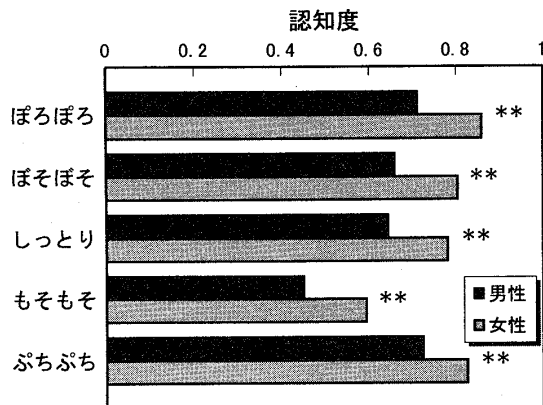


図2. 有意な男女差のある上位5語

消費者パネル595人(男性284人, 女性311人)の性別の集計結果. 各用語について「食感覚を表現するか」の問にYesと回答したパネリストの割合を認知度とし, 男女の比較を χ^2 検定により行った. 図には, χ^2 値の大きいものから5語を示した. **: $p < 0.01$.

なくなっている」と推察される. この背景として, 食物が時代により変化し, それに伴って用語が変化した, 食嗜好の差から年齢によって使用する用語に差がある, あるいは流行語のように表現自体が新しい, などの可能性が考えられる.

4) 職業による回答の傾向

食に関係する職業についているパネリストは595人中68人と少数であった(表4). また, 年齢と職業についてクロス集計したところ, 10代, 20代, 30代がそれぞれ17人, 17人, 12人と, 若年層に多くなっていた. このようなパネルの回答結果で, 職業による傾向を分析することは意味がないと考え, ここでは解析を省略した.

5) 食に対する興味の程度による回答の傾向

食に対する興味の程度は, 調査票では5カテゴリとしたが, 「興味がない」に該当したパネルは9人と少なかった(表4). そこで, 「あまり興味がない」と「興味がない」を同一カテゴリとし, 4カテゴリで分析を行った.

1人のパネリストの全53語中の認知した語数を興味の程度別に調べたところ, 「とても興味がある」 40.8 ± 6.9 語, 「かなり興味がある」 38.9 ± 7.1 語, 「やや興味がある」 37.2 ± 7.3 語, 「あまり興味がない」 36.4 ± 7.0 語と, 有意水準1%で, 食に対する興味が強いほど, 認知した語数が多く, 食感覚を表現する用語が豊富であることが推察された.

個々の用語について, 食に対する興味の程度別の認知度を比較し, χ^2 検定を行った. 有意水準5%で,

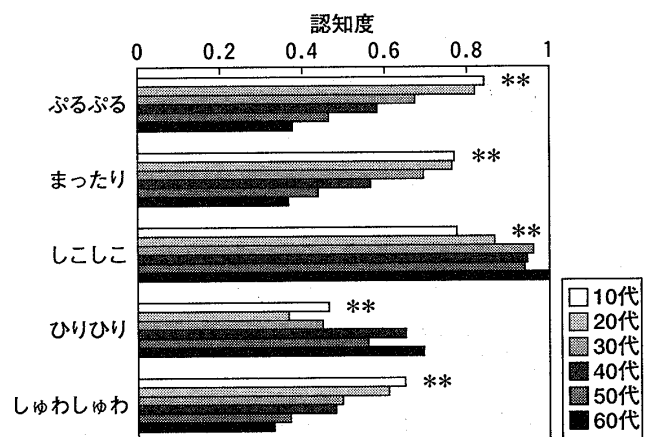


図3. 有意な年齢層差のある上位5語

消費者パネル595人(10代108人, 20代107人, 30代105人, 40代106人, 50代84人, 60代85人)の年齢層別の集計結果. 各用語について「食感覚を表現するか」の問にYesと回答したパネリストの割合を認知度とし, 年齢層別の比較を χ^2 検定により行った. 図には, χ^2 値の大きいものから5語を示した. **: $p < 0.01$.

興味の程度による有意差が認められた用語は14語あった. このうち, 差の大きい上位5語を図4に示した. “しこしこ” “ぼそぼそ” “ぷちぷち”など, 食に対する興味が強い人ほど認知度が高かった. 食に対する興味の強い人は, これらの用語で表現される感覚に敏感であるか, 嗜好的に重要視しているのかもしれない.

6) 総合考察

以上のように, 食感覚の擬音語・擬態語には, 性, 年齢, 食に対する興味の程度によって, その認知度が異なる用語があった. これには, 食経験や食嗜好の差が関わっていると推察される. 頻繁に食べるものはその食感覚を表現しやすく, 食べたことのないものは表現できない. また, 好きな食感覚, あるいは逆に嫌いな食感覚に対しては敏感で, それを表現する言葉が豊富になることは, 十分あり得るからである.

年齢が異なれば食経験は大きく異なり, また, 食に対する興味が強いほど, さまざまな食経験をもっている可能性がある. 食嗜好についても, 年齢あるいは性によって異なるという報告^{16)~18)}がいくつかなされている.

すなわち, 性, 年齢, 食に対する興味の程度が異なると, 食経験や食嗜好が異なり, 食感覚の用語の認識に影響すると考えられる. しかも, これらの要因は単独に影響するのではなく, 複合的に関わっていると考えられる. たとえば, “ぼそぼそ” “ぷちぷち”は男女差がある(図2)と同時に, 食に対する興味の程度に

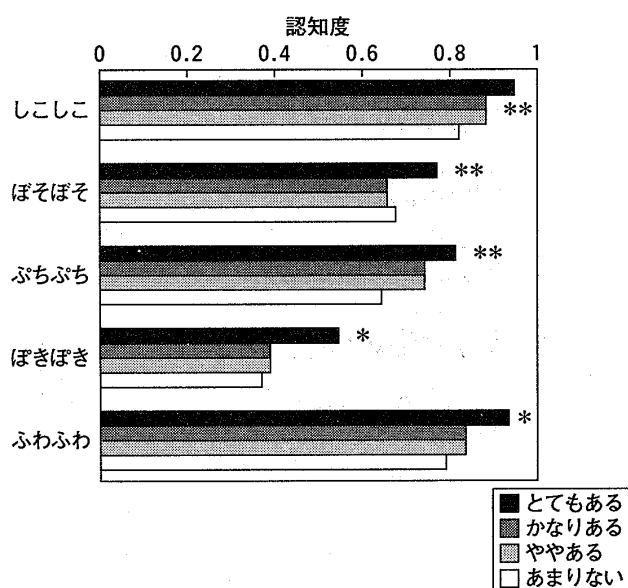


図4. 食に対する興味の程度により有意差のある上位5語

消費者パネル 595 人（食にとっても興味あり 163 人，かなり興味あり 180 人，やや興味あり 184 人，あまり興味なし 68 人）の食に対する興味の程度別の集計結果。各用語について「食感覚を表現するか」の間に Yes と回答したパネルリストの割合を認知度とし，興味の程度別の比較を χ^2 検定により行った。図には， χ^2 値の大きいものから 5 語を示した。*： $p < 0.05$ ，**： $p < 0.01$ 。

よる差もみられる（図4）。“しこしこ”は年齢層差（図3）と食に対する興味の程度による差（図4）がみられる。これらについては，用語と食物との関係も含めて，多次元の解析が必要である。なお，各用語の性別・年齢別の詳細なデータに関しては付表を参照されたい。

また，今後，コホート分析を行うことにより，世代による差と時代による差を追跡することも可能である。今後の検討課題としたい。

4. 要 約

食感覚の擬音語・擬態語の収集を目的として，アンケート調査，文献調査，解析を行ったところ，以下の結果が得られた。

（1）食感覚の擬音語・擬態語として，アンケートおよび文献調査により 192 語を収集し，討議により不適切なものを除いて 152 語とした後 62 の語群に整理し，さらにアンケート調査により検証し，最終的に 53 語を得た。

（2）「食感覚を表現するか」という質問に対する回

答，すなわち，食感覚表現としての認知度に，男女差，年齢層差，食に対する興味の程度による差のある用語があった。

本研究を進めるにあたり，ご助言いただきました統計数理研究所馬場康維教授に深く感謝いたします。またご多用中にもかかわらず，快く調査にご協力下さいました皆様に感謝いたします。

引 用 文 献

- 1) 柴田 武，石毛直道：『食の文化フォーラム・食のことば』，ドメス出版，東京，132（1983）
- 2) Yoshikawa, S., Nishimaru, S., Tashiro, T., and Yoshida, M.: Collection and Classification of Words for Description of Food Texture, *J. Texture Stud.*, **1**, 437-442 (1970)
- 3) 下田満哉，佐々木仁，土肥由長，亀田 弥，箴島 豊：抽象的匂い用語のキャラクターゼーション，*日食工誌*, **36**, 7-16 (1989)
- 4) 下田満哉，佐々木仁，土肥由長，亀田 弥，箴島 豊：具体的匂い用語のキャラクターゼーション，*日食工誌*, **36**, 17-25 (1989)
- 5) 下田満哉，佐々木仁，塚本祐二，土肥由長，亀田 弥，箴島 豊：食品の匂い評価と匂い用語のキャラクターゼーション，*日食工誌*, **36**, 26-33 (1989)
- 6) 早川文代，畑江敬子，島田淳子：アンケート調査による“あぶらっこさ”の特徴づけ，*家政誌*, **48**, 19-28 (1997)
- 7) 日科技連官能検査委員会：『新版官能検査ハンドブック』，日科技連，東京，577 (1973)
- 8) 浅野鶴子，金田一春彦：『擬音語・擬態語辞典』，角川書店，東京 (1979)
- 9) 阿刀田稔子，星野和子：『擬音語・擬態語使い方辞典』，創拓社，東京 (1996)
- 10) 尾野秀一：『日英擬音語・擬態語活用辞典』，北星堂書店，東京 (1996)
- 11) 金田一京助，佐伯梅友，大石初太郎，野村雅昭：『新選国語辞典』，小学館，東京 (1996)
- 12) 新村 出：『広辞苑』，岩波書店，東京 (1991)
- 13) 竹内晴彦：感性表現用語の心理計測と分析，*計量国語学*, **19**, 234-251 (1994)
- 14) 内閣総理大臣官房広報室：世論調査報告書・国民生活に関する世論調査 (1993)
- 15) 安田三郎，原 純輔：『社会調査ハンドブック』，有斐閣，東京，12 (1985)
- 16) 山口和子，高橋史人：食品の嗜好に関する研究（第1報），*調理科学*, **15**, 104-113 (1982)
- 17) 高橋史人，山口和子：食品の嗜好に関する研究（第2報），*調理科学*, **18**, 259-268 (1985)
- 18) 神山かおる：現代日本人の食嗜好動向，農林水産省食品総合研究所研究報告，**59**, 1-15 (1995)

食感覚の擬音語・擬態語の収集と選定

付表. 有効回答者および食感覚の擬音語・擬態語を認知した人数

10代 20代 30代 40代 50代 60代 合計								10代 20代 30代 40代 50代 60代 合計									
全有効回答者																	
	男性	54	53	54	50	38	35	284									
	女性	54	54	51	56	46	50	311									
	合計	108	107	105	106	84	85	595									
あつあつ	男性	50	50	49	47	34	34	264	しっとり*	男性	32	35	30	32	25	29	183
	女性	49	43	45	51	43	47	278		女性	39	41	40	44	37	42	243
	合計	99	93	94	98	77	81	542		合計	71	76	70	76	62	71	426
あっさり	男性	51	50	46	46	32	32	257	しゃきしゃき	男性	43	41	44	45	31	34	238
	女性	50	46	47	47	41	47	278		女性	50	48	44	49	42	43	276
	合計	101	96	93	93	73	79	535		合計	93	89	88	94	73	77	514
かすかす	男性	18	24	25	29	20	23	139	しゃりしゃり	男性	50	45	44	46	30	29	244
	女性	26	30	21	29	25	25	156		女性	53	49	45	47	42	43	279
	合計	44	54	46	58	45	48	295		合計	103	94	89	93	72	72	523
かちかち*	男性	26	23	23	19	15	23	129	しゅわしゅわ*	男性	32	29	24	24	11	5	125
	女性	27	22	21	35	28	36	169		女性	38	36	28	27	20	23	172
	合計	53	45	44	54	43	59	298		合計	70	65	52	51	31	28	297
かっか	男性	9	8	13	12	7	10	59	すーすー	男性	27	22	28	20	15	13	125
	女性	10	16	8	21	17	13	85		女性	35	23	24	21	20	28	151
	合計	19	24	21	33	24	23	144		合計	62	45	52	41	35	41	276
からっ	男性	37	44	43	37	30	27	218	ずるずる	男性	34	33	32	34	23	28	184
	女性	40	40	36	44	32	40	232		女性	40	29	27	34	26	36	192
	合計	77	84	79	81	62	67	450		合計	74	62	59	68	49	64	376
かりかり	男性	48	45	46	45	32	30	246	つつつつ	男性	47	49	52	48	35	33	264
	女性	47	47	46	51	40	46	277		女性	45	50	51	51	46	50	293
	合計	95	92	92	96	72	76	523		合計	92	99	103	99	81	83	557
がりがり*	男性	36	30	32	36	17	28	179	とろとろ	男性	49	45	41	39	29	28	231
	女性	40	35	32	42	36	39	224		女性	46	46	45	49	41	43	270
	合計	76	65	64	78	53	67	403		合計	95	91	86	88	70	71	501
きしきし*	男性	8	9	8	9	2	6	42	どろどろ	男性	44	34	43	38	28	31	218
	女性	9	10	6	15	11	21	72		女性	40	37	34	47	37	45	240
	合計	17	19	14	24	13	27	114		合計	84	71	77	85	65	76	458
ぎとぎと*	男性	28	34	31	28	18	18	157	にちゃにちゃ	男性	21	33	33	20	15	27	149
	女性	32	39	32	38	30	32	203		女性	24	24	20	29	27	31	155
	合計	60	73	63	66	48	50	360		合計	45	57	53	49	42	58	304
ぐにやぐにや*	男性	36	35	44	37	28	26	206	ぬるぬる	男性	45	40	37	41	33	33	229
	女性	43	40	36	47	39	45	250		女性	43	40	39	46	38	46	252
	合計	79	75	80	84	67	71	456		合計	88	80	76	87	71	79	481
こってり	男性	51	53	52	45	37	33	271	ねっとり	男性	44	44	46	45	30	30	239
	女性	49	48	49	52	44	49	291		女性	41	41	38	43	42	42	247
	合計	100	101	101	97	81	82	562		合計	85	85	84	88	72	72	486
こりこり	男性	49	51	53	49	38	35	275	ばさばさ	男性	50	50	53	48	37	32	270
	女性	51	52	50	54	41	49	297		女性	51	52	48	54	43	46	294
	合計	100	103	103	103	79	84	572		合計	101	102	101	102	80	78	564
さくさく	男性	53	50	53	48	34	34	272	ばらばら	男性	28	21	21	23	17	24	134
	女性	52	53	50	53	44	47	299		女性	19	21	23	32	26	37	158
	合計	105	103	103	101	78	81	571		合計	47	42	44	55	43	61	292
さっぱり	男性	49	51	45	43	33	30	251	ぱりぱり	男性	45	44	43	40	31	30	233
	女性	50	49	45	50	45	49	288		女性	48	47	40	37	29	43	244
	合計	99	100	90	93	78	79	539		合計	93	91	83	77	60	73	477
さらさら	男性	37	33	39	41	32	31	213	ぱりぱり	男性	53	52	53	49	35	34	276
	女性	38	37	31	40	33	43	222		女性	53	53	49	55	43	49	302
	合計	75	70	70	81	65	74	435		合計	106	105	102	104	78	83	578
ざらざら	男性	38	30	41	37	23	30	199	ひりひり*	男性	21	19	21	31	20	24	136
	女性	29	39	31	40	35	41	215		女性	29	20	26	38	27	35	175
	合計	67	69	72	77	58	71	414		合計	50	39	47	69	47	59	311
しこしこ	男性	43	45	54	48	36	35	261	ひんやり	男性	40	40	40	41	27	27	215
	女性	41	48	47	52	43	50	281		女性	47	35	39	43	38	39	241
	合計	84	93	101	100	79	85	542		合計	87	75	79	84	65	66	456

付表. (続き)

		10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計			10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
ぶちぶち*	男性	40	43	45	38	22	18	206	ぼそぼそ*	男性	35	27	32	39	24	30	187
	女性	47	50	45	46	36	33	257		女性	42	41	40	45	39	43	250
	合計	87	93	90	84	58	51	463		合計	77	68	72	84	63	73	437
ふっくら	男性	48	47	49	43	33	31	251	ほっかほっか	男性	43	47	45	45	37	33	250
	女性	50	46	44	52	36	44	272		女性	46	46	42	52	40	49	275
	合計	98	93	93	95	69	75	523		合計	89	93	87	97	77	82	525
ふにゃふにゃ	男性	34	35	37	38	22	25	191	ぼりぼり	男性	43	40	35	40	30	27	215
	女性	30	33	30	45	38	36	212		女性	42	46	31	39	36	43	237
	合計	64	68	67	83	60	61	403		合計	85	86	66	79	66	70	452
ぶりぶり	男性	39	39	43	37	18	22	198	ぼりぼり	男性	38	39	45	45	32	32	231
	女性	38	42	40	43	38	32	233		女性	46	45	46	46	37	44	264
	合計	77	81	83	80	56	54	431		合計	84	84	91	91	69	76	495
ぶるぶる	男性	45	44	33	29	12	11	174	ぼろぼろ*	男性	41	32	38	35	26	30	202
	女性	46	44	38	33	27	21	209		女性	42	46	44	50	38	47	267
	合計	91	88	71	62	39	32	383		合計	83	78	82	85	64	77	469
ふわふわ	男性	42	51	48	43	30	28	242	まったり	男性	36	42	39	25	12	11	165
	女性	47	49	43	48	43	43	273		女性	47	40	34	35	25	20	201
	合計	89	100	91	91	73	71	515		合計	83	82	73	60	37	31	366
べたべた	男性	41	35	37	40	29	31	213	むちむち*	男性	21	28	23	14	11	14	111
	女性	37	33	37	43	38	46	234		女性	19	25	24	30	24	30	152
	合計	78	68	74	83	67	77	447		合計	40	53	47	44	35	44	263
ぼきぼき	男性	18	25	14	28	19	20	124	もそもそ*	男性	23	20	19	29	14	23	128
	女性	29	26	14	25	20	34	148		女性	28	24	29	32	35	37	185
	合計	47	51	28	53	39	54	272		合計	51	44	48	61	49	60	313
ほくほく*	男性	51	52	49	44	36	34	266									
	女性	52	53	49	53	46	49	302									
	合計	103	105	98	97	82	83	568									

有効回答数および各用語について「食感覚を表現するか」の問に Yes と回答した人数を性別・年齢層別に示した。用語は50音別に並べた。用語の右上の「は男女を合計したときに5%の有意水準で年齢層差があることを、*は各年齢層を合計したときに5%の有意水準で男女差があることを表す。